

2019年度 全国ローバースカウト会議総会



日時：2019年5月25日（土） 15:30～17:30
場所：鹿児島市民文化ホール 第一ホール



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

次第

1. 開会の言葉
2. 国旗儀礼・国歌斉唱
3. 議長挨拶
4. 議事
 - 【第1号議案】2018年度事業報告に関する件
 - ・報告事項：2018年度運営委員による自己評価・反省
 - ・報告事項：2018年度会計に関する件
 - 【第2号議案】全国ローバースカウト会議三カ年目標に関する件
 - 【第3号議案】運営委員会の編成に関する件
 - 【第4号議案】2019年度事業計画に関する件
 - ・報告事項：2019年度予算案に関する件
5. 講評
6. 連盟歌斉唱
7. 国旗儀礼
8. 閉会の言葉

<資料>

- Ⅰ 2019年度RCJ県連盟代表者抱負
- Ⅰ 「全国ローバースカウト会議」憲章
- Ⅰ 2019年度全国ローバースカウト会議代表スカウト名簿

議長挨拶



全国ローバースカウト会議
2018年度議長 木村 直登

全国ローバースカウト会議（RCJ）は平成二十四年に設立され、今年度で八年目を迎えます。過去七年間を鳥瞰すると、RCJは様々な潮流を鑑み、滔々と変化を続けることで発展を続けて来たことがわかります。記憶に新しいのが、昨年度のRCJ総会にて可決されたRCJ構造改革案では無いでしょうか。構造改革可決により、運営委員会内の役割分担は「活動推進委員」と「ブロック代表委員」に二分され、委員の数も八名から十二名へととなりました。元来RCJ構造改革の提案は、第十三回世界スカウトユースフォーラム派遣団による提言に端を発するものです。派遣員たちが世界のスカウティングを見て、感じ、そして日本に必要だと訴えるものを汲み取ることができた貴重な事例です。また昨年度総会においては、RCJという組織の髄とも言えるVision, Mission, Valueが制定されました。今まで漠としていたRCJの存在意義が明文化されたこと、三カ年目標の導入、そして数々の変化を経てRCJはようやく持続発展可能なネットワークとしての船出を果たしたと評価できるのではないのでしょうか。

しかしながらマクロ的視座でRCJを概観するならば、我々の前途は決して順風満帆なものではなく、むしろ多難であることが見込まれます。我々には、自惚れ、享楽に耽る暇は一切無いのです。卑近な例を挙げれば、日本におけるボーイスカウト人口そもそもの減少によりRCJは言い知れぬ脅威に生殺与奪の権を握られています。おそらく次の二年間がRCJの正念場ではなかろうかと、管見ながら推察しております。また、加盟員の減少によりシルバー民主主義が横行し、日本のボーイスカウトは輪をかけて唐変木になっているように思われます。だからこそ、我々ユースがリーダーシップを発揮していくしかないのです。

時代は刻一刻と変化していきますが、常に若者が変化を牽引してきました。そして第四次産業革命の波、そして不確実性に溢れるVUCAとも言われる時代の到来が叫ばれる昨今、我々に求められているのは時代の変化に即応した適切なリーダーシップです。故に、日本のボーイスカウト運動の運命は我々ユースのリーダーシップに委ねられているように思われるのです。全国のユースを団結させ、多様なローバーリングを経た各々がリーダーとして日本のスカウティング、延いては日本の未来を牽引していくことがRCJの目指すVisionとも言えるのではないのでしょうか。

RCJの未来は、日本のスカウティングの未来は、そして日本社会の未来は、我々一人一人が築き上げていくものです。良きボーイスカウトではなく良き社会人、すなわちActive Citizenを目指し、一致団結して我々の未来を変えていきましょう。

第1号議案 2018年度事業報告に関する件

<RCJ総会>

日時：2018年5月26日（土）

場所：長良川国際会議場（岐阜県岐阜市）

出席：戸谷議長、木村・池田 両副議長

千田・玉井・佐坂・神尾・内田 各委員

欠席：なし

参加県連盟：県連盟代表 41名

主な協議事項：・RCJのVision、Mission、Valueの制定

・RCJ三カ年目標および三カ年施策

・RCJ構造改革案

<運営委員会>

【第1回運営委員会】

日時：2018年5月27日（日）12：00～14：00

場所：長良川国際会議場（岐阜県岐阜市）

出席：木村議長、池田・山路 両副議長

加藤・堀・長谷川・中嶋・鈴木・内田・三田・佐坂・吉川 各委員

中村プログラム委員、小山アドバイザー

主な協議事項：・平成30年度運営委員会の組織方針

・運営委員の役割分担

・今後のスケジュール

【第2回運営委員会】

日時：2018年7月14日（土）13：00～15日（日）12：00

場所：ボーイスカウト会館（東京都文京区）

出席：木村議長、池田・山路 両副議長

鈴木・内田・三田・佐坂・吉川・長谷川・堀 各委員

中村プログラム委員、小山アドバイザー、徐事務局職員

※欠席：加藤・中嶋委員

主な協議事項：・広報ツールの活用（Facebook, LINE@）

・3カ年計画における2018年度注力事項

・今後のRCJイベント

【第3回運営委員会】

日時：2018年10月27日（土）13:00～28日（日）12：00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

出席：木村議長、池田・山路 両副議長

鈴木・内田・三田・佐坂・吉川・加藤・堀・中嶋 各委員

中村・竹内 両プログラム委員、小山アドバイザー、徐事務局職員

※欠席：長谷川委員

主な協議事項：・RCJガイドブックの導入

・2019年度RCJフォーラム

・今後の野営大会のあり方

【第4回運営委員会】

日時：2019年3月2日（土）13:00～3日（日）12:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

出席：木村議長、池田・山路 両副議長

鈴木・内田・三田・佐坂・加藤・堀・長谷川 各委員

中村・竹内 両プログラム委員、小山アドバイザー、徐事務局職員

※欠席：吉川・中嶋委員

主な協議事項：・次回野営大会のスケジュール

・2019年度全国大会に向けて

・3カ年計画の達成状況評価

＜対面式ブロック会議＞

2017年度予算からの交通費補助により、各ブロックが1度対面で会議を出来る機会を設け全ブロックが対面での会議を実施しました。以下に各ブロックからの会議報告を掲載いたします。なお、所感は2018年度ブロック代表によるものです。

○北海道・東北ブロック

日時：2018年11月23日(金・祝)・24日(土)

場所：宮城県仙台市 青葉区中央市民センター

議題：各県の活動内容・連絡ツールの確認、地方ローバーの課題、RS年代の指導者としてあるべき姿、ブロックイベントについてなど

所感：7連盟の県代表が初めて一堂に会した会議となった。

1泊2日を使い、現状の確認と今後の展望を話し合った。

北海道・東北ブロックは、面積が大きいため、多くのスカウトが1つの場所に集まることは容易ではない。そのような現状の中で様々なアイデアを出してどのようにすればブロックが活性化するかを模索した。

○関東ブロック

日時：2018年10月21日(日)

場所：杉並区井草地域区民センター

議題：ブロック内における現状分析・RCJ3カ年目標の落とし込み、ブロックイベントに向けた役割分担、第1回ブロックイベント実行委員会

所感：各県のローバースカウトの活発さをより詳しく把握することができた。

また、3年前より継続的に行われていたブロックイベントについても今までと違う場所で行ったり、実行委員制など多くの新たな試みが行われた。

○中部ブロック

日時：2019年1月19日(日)13時～17時

場所：平和学区集会所（愛知県名古屋市）

議題：各県活動報告、今年度反省、ブロックイベントについて、来年度に向けて

所感：中部ブロックでは未だブロックイベントを行ったことがなく、今年度はその計画を主に行ってきた。オンライン上での会議よりも対面で行った方が活発な会議を行うことができ、ブロックイベントについて大きく動き出せたと思う。

○近畿ブロック

日時： 2018年11月18日(日)9:25～13:00

場所： 大阪連盟スカウト会館

議題： 近況報告(各県の状況・上半期の振り返り)・RCJ近畿ブロックの目的、目標の再確認・ブロックイベントについて・広報について(Twitter、Facebook、LINE@)・業務計画内容について(アンケート、RCJ運営委員会からの連絡事項・その他(運営委員会への要望、質疑応答など)・次回ブロック会議の日程、議題

所感：RCJ近畿ブロックイベントは今回で4回目となるが、平成31年度県代表と力を合わせ過去最大規模のキャンプを行うことが出来た。広報についてもSNSアカウントを新たに開設し、近畿ブロックを色々な形でこれからも発信できるよう工夫していく。今後、近畿ブロックの仲間がのびのびと活動できるよう、色々な調査や工夫が必要となってくるであろう。来年度以降はそれらを中心に活動を行いたい。

○中国・四国ブロック

日時： 平成30年12月16日（日）11:00～17:00

場所： 広島県宮島市民センター

議題： ブロックイベント準備、イベント開催地下見、未選出県の県代表について

○九州・沖縄ブロック

日時： 平成30年9月29日(土)8:00～18:00

場所： 鹿児島第18团团ハウス

議題： 中間地点での評価・反省、RCJ運営委員会からの連絡、全国事業への関わり、全国大会に向けて、県代表支援システム

所感：年度の中間地点で、県代表それぞれが各県連盟の反省を見出し、残りの任期で何をすべきか明白化した機会となった。ブロックの活性化を中心に議論を進め、SNSアカウントの開設や、今後の動き出しについての方針を固めることができた。電話での会議と対面での会議は、県代表の関わり方が違い、一つ一つの議題に対してより深く議論することができたことも実感した。

<ICTチーム>

担当委員：池田章浩

評価反省：2018年7月15日（日）に旧ボーイスカウト会館（東京都文京区本郷1-34-3）にて対面会議を行った。Webチーム時代の積み残しだったRCJウェブサイトのワードプレス化が完了した。また、17NSJのローバーを対象としたWebベースの交流プログラム”ローバーモンスター”の実施に向け、アプリ開発チームをバックアップした。ICTチームとしてICTの利活用を通じたローバーリングの推進を行えた。



<国際チーム>

担当委員：堀秀慈

評価反省：国際チームというタスクチームの土台作りに専念した。

スポットのタスクでは昨年10月に行われたAPRユースフォーラムへの派遣サポートを行った。派遣員からの依頼に基づき、各県連の青年参画情報などを収集し、現地での報告に役立ててもらった。RCJという全国ネットワークの利点を構成員に還元する機会を作ることができたと考えている。今後もRCJ構成員の国際活動の活発化に焦点を当てて施策を実行していく。

<RCJ Re:Quest>

名称：RCJ Re:Quest

テーマ：「Good Resolution」

大会期間：2018年8月23日(木)～26日(日) 3泊4日

会場：高萩スカウトフィールド（〒318-0104 茨城県高萩市中戸川字菖蒲尻412）

目的：・RCJ構成員にとって、本大会がローバースカウト活動の目標を達成する一助となる。

・本大会を持続的な事業とすることにより、ローバースカウト部門の発展に寄与する

目標：・様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。

・プログラムを通じて参加者の自己研鑽へとつなげる。

・地域社会に貢献できる市民として必要な資質を養う。

プログラム：今大会では個々の成長、今後のローバースカウトの発展となるきっかけを目指すプログラムとし、2日目の半日プログラム、3日目の一日プログラムと選択制とした。また、自主プログラムを公募し実際に2つの半日プログラムを実施した。各プログラムでは、高度な野外活動、自己研鑽、地域奉仕とローバースカウトの教育目標に基づいたプログラムの実施展開を目指した。

運営：出口裕理委員長、加藤大貴副委員長、船橋嘉一委員、内田椋太委員、玉井鈴野委員、三田あかね委員、安達保乃香委員、池田章浩委員、枝迫雄大委員、小馬加奈子委員、中村友一プログラム委員（アドバイザー）

参加者：24県連盟105名（うち実行委員10名）

評価反省：当初の目標数の半分という参加者数になってしまったが、参加者にとって事後アンケートを見ても満足度は高く、その後の全国のローバーリングの活性化を促すことができた大会であったと言える。前回のRCJクエストよりもプログラムが充実し、参加者による自主プログラムも行われた。今後、大会のより一層の充実のための準備期間延長、また参加者数が減ってしまう一因とされるNSJとの開催時期の被り、これらを解決するために開催時期の検討が必要とされる。大会を運営するスタッフの少なさも痛感されたため、次回野営大会では実行委員会以外に大会期間中の運営スタッフを増やし対応していくべきだと考える。

報告書：https://rcjweb.jp/wp-content/uploads/2019/03/RCJ-Re_Quest_final.pdf

<RCJの広報への取り組み>

○LINE@

担当委員：池田章浩、長谷川明里

2018年8月2日 LINE@の基本方針・設定が完了。

2018年8月9日 LINE@による初めての情報配信。

2019年3月6日 プレミアムID化（@roveringjapan）が完了。

2019年3月 関東・近畿・中四国RCJブロックイベントにてLINE@の告知。

2019年4月8日 友だち追加数増加により、ベーシックプラン（有料）へ変更。

評価反省：LINE@を今年度で始動させ、友だち数を増やししながらLINE@の運用方針や運用方法を研究することができた。今後は日本連盟HPからの情報を配信する二次的な媒体ではなく、RCJWebサイト更新情報やその他ローバーのためになる情報をより配信できるようにしたい。友だち追加の促進は、RCJ構成員の協力を必要とする。RCJ構成員にLINE@の周知を積極的に行ってもらえるよう内容を充実させたかった。

○RCJ Web特集「聞かせて！あなたのローバリング」

担当委員：長谷川明里

リレーインタビューと区別し、RCJ構成員の『活動』をメインに取り上げる新しい取り組みを企画・実施した。

<概要>

RCJ構成員の『活動』に焦点を当てたインタビューを行い、Webサイトに特集として掲載することで、全国のローバースカウトの活動内容を集約し、ローバーへの理解や活動展開の参考となる情報提供をする。

<形式>

特集記事としてWebサイトに掲載。

掲載更新情報を各種SNS媒体にて告知。

<実施報告>

第1回「英国エディンバラ公 国際アワード(ゴールド)」2019.01.22配信

評価反省：本企画にたどり着くまでに提案の改訂や調整を繰り返したため、年度内での配信が非常に遅くなってしまい悔しさが残る。しかし慎重な議論を行い、企画を実施するうえでの注意事項などを整理できたので難しい要素は消えることはないが、この企画に対する取り組みは今後の投資になったと思える。

報告事項 2018年度運営委員による自己評価・反省

	自己評価・反省
<p>活動推進委員 議長</p> <p>木村 直登 (留任) (組織拡充担当)</p>	<p>光陰矢の如し。まずは今までお世話になった方々、特にこれまで共にRCJを動かしてきた仲間達に衷心より感謝の意を表したい。</p> <p>RCJでは非常に多くのことを学ばせて頂いた。特に今年度は構造改革案可決による組織改変後の過渡期における議長職ということで、組織運営の難しさを痛感させられた一年間だった。今期はRCJ組織構造安定のための対内的施策が目立ち、一方の対外的施策は十分には展開できていないなど反省点も多々あるが、それを活かして来年度にはより良い組織・ネットワーク作りに取り組んでもらえれば議長冥利に尽きる。RCJの今後の益々の発展、そしてRCJ構成員の各方面における八面六臂の活躍を祈念し、ここで筆を置くことにする。</p>
<p>活動推進委員 副議長</p> <p>池田 章浩 (留任) (ICT担当)</p>	<p>3期3年目のRCJ運営委員として、これまでの意思決定の中で培った経験を、議論の中で発言を通して生かすことができた。一方で、従来の中長期計画へのコミットの先送り問題への解決策として、三カ年目標および施策を設定することを提案した年度の運営委員としては、運営委員会の中で共通認識を持つための働きかけが不十分だった。県連盟ローバースコミュニティシートの制作にあたっては、昨年度から構想があったものの自身のローバーリングへの理解の浅さから完成までに多大な時間を要した。昨年度からの担当業務として17NSJにおけるローバーを対象としたWebベースの交流プログラム”ローバーモンスター”の展開に責任を持っていたことに対しては、アプリ開発チームの仲間やICTチームの方、そして17NSJを支える成人指導者の方々のご理解とご協力によって役割を全うできた。RCJウェブサイトがワードプレス化したことにより、ICT担当の運営委員として広報担当や国際担当と共にRCJウェブサイトの拡充を行った。LINE@の導入・運営は広報担当と協力することができた。Cybozu Liveのサービス終了に伴うグループウェアの移行・運用については、木村議長と小山アドバイザーに大いに甘えながらも少しばかり携わることができた。動き出しは遅いが、最後にはなんとか帳尻を合わせることであった1年間だった。これも関わっていただいた方々からの励みやご支援があったからに違いない、この場を借りてお礼申し上げたい。</p>
<p>ブロック代表委員 副議長</p> <p>山路 卓 (九州・沖縄)</p>	<p>1年間RCJ運営委員会の副議長を務めさせて頂き、RCJという組織の偉大さを実感した。議論の場では、県代表やブロック代表の目線で、RCJがうまく機能することを意識して発言することを心がけたものの、我々の目標とも言える三カ年目標を十分に意識できていなかったという反省点がある。</p> <p>ブロック代表としては、当初ブロックとして全国大会や来年度のブロックイベントなど、ブロック全体で活性化を働きかける活動を予定していた。そのためにSNSのアカウント開設など具体的な手段を取ってきたが、どの考えも一時的なイベントであって、九州沖縄ブロックが抱えている問題の根本的な解決策ではなかった。つまり、全体的なムーブメントを起こそうとして各県連盟の課題や県代表の悩みに対しての対応ができていなかった。この点に気づくのが遅かったことに後悔が隠せないが、年度末に県代表と各県連盟の具体的な話を共有することで、来年度に活かしてもらおうという対応ができた。</p> <p>1年間運営委員としてRCJに携わり、後悔も多く残してしまいましたが、この任期を無事に終えることができたのも、多くの方々の支えがあったからです。ありがとうございました。これからRCJがもっともっとローバーの役に立つ組織になっていくことを願っています。</p>

<p>活動推進委員</p> <p>加藤 大貴 (記録管理担当)</p>	<p>自身の業務、今年度のRCJ運営委員会という2つの観点から振り返る。</p> <p>まずは自身の業務について記す。「地方部のローバースカウトに共通する課題を見つける」という目標に基づき、地方部のローバースカウト・ローバー組織の動向を注視し、時には県代表へのヒアリングも実施した。その中で感じたことは、「人が少ない」「既存のコミュニティが進学・就職によって希薄化する」といった地方部におけるローバースカウト部門の課題は、ローバースカウト部門だけで解決できるものとは言いにくいということである。むしろ、日本のスカウティング、ひいては日本社会の構造的な課題ではないか。しかし、全国に存在するということが魅力・強みのひとつであるスカウティングが、地方部から目を背けてはいけない。各種全国事業や地域の垣根を超えた活動が楽しい最も大きな理由は、「多様な人々がその多様さを受け入れ、楽しむ」という部分にあるはずだ。今後も多様なスカウトが、楽しみながらローバースカウト部門を盛り上げるために、この「地方部」という観点を持ち続けてほしい。</p> <p>次に今年度のRCJ運営委員会の発展について記す。今年度は、三カ年計画のもと、「今取り組んでいる業務が、最終的にローバースカウト部門のどういった部分にプラスの影響をもたらすのか」という点を明確に意識して各委員が業務に取り組んでいたと思う。また、主に青年参画の観点から、今年度は進歩が多くあった。ローバースカウトが、ローバースカウト部門だけでなく、県連盟や日本連盟とも密接につながり、意見を提示できるようになれば、ひとつ目にあげた地方部の課題（ローバースカウトだけではなんとも解決し難いもの）へとアプローチできると思う。</p>
<p>活動推進委員</p> <p>中嶋 路央 (社会連携担当)</p>	<p>まず、自身の業務についてである。私は、活動推進委員になると同時に、社会に出た。私のミッションはスカウトと社会のつながりを考察することにあつた。まず、実感から言えば、スカウティングは、社会人にとって非常に困難な点が多いと言うことがわかつた。</p> <p>世の中が、これだけ多様化した時代、スカウティングはどうあるべきなのか。どうしても、多くの人々が休みとなる土曜、日曜などに活動、会議を行うことが多かつたが、その際も、仕事との兼ね合いなどから、参加できない会議なども少なくなかつた。その点は、多くのスカウトによって選任された、委員として、多くのスカウトに申し訳ないという言葉以外ないと私自身、深く反省している。</p> <p>その反面、今回の運営委員においては、学生のスカウトの手によって支えられていたということは、言うまでもないであろう。多くの会議のセッティングしかり、議事録作成しかり、学びとバイトと、スカウティングの共存が多くの委員の仲間に備わっていたことは感謝しきれない。</p> <p>来年以降のRCJ、あるいは、スカウティングもそういったいくつもの人の手で支えられていってほしいと思う。しかし、懸念もある。それは、RCJのワークそのものが、多岐にわたりすぎ、本質を見失いそうになることが少なくなかつたことである。なぜ、私たちはこの仕事をするのか。なぜ、やらなければならないのか。やることによってどうなるのか。やらねばどうなってしまうのか。一つひとつのケースをよく考えて、仕事に当たってほしいと思うし、無駄な仕事をしないために皆が無駄でない仕事を繰り返す必要があることを、ここに記して、私の反省としたい。</p> <p>最後になりましたが、1年私たちを引っ張ってくれた木村議長始め、委員の皆に感謝することはもちろん、仕事として私たちの活動を支えてくださった事務局の方々、アドバイザーの方々、ありがとうございました。</p>

<p>活動推進委員</p> <p>堀 秀慈 (国際担当)</p>	<p>RCJの構造改革という施策が実行された昨年度に比べると、インパクトが見えにくいかもしれないが、ブロック代表に活動推進委員が加わった新体制でのこの1年間は中長期的に効果のある施策を進めることができたと感じている。組織のメンバーが変わっても「90~100」の組織状態をそのまま引き続けていけるようなマニュアルの作成等は、スタートアップの時期を抜け安定した活動が求められる段階において大きな効果が発揮されるだろう。私が言う"組織"はRCJ運営委員会に限ったものではない、各ブロック・県連ローバースももちろん含まれるものである。このようにローバースカウトが関わる全ての組織の発展に寄与できるような基盤作りができたのは、マクロ的視点を持つ委員とミクロ的視点を持つ委員のどちらもいたからこそであろう。そういった意味で構造改革に効果を見出したのである。</p> <p>今後の発展の話になるが、我々はRCJという組織がローバースカウトにどのような貢献をできたか、端的にいうならばどのような成果を起こせたかを追求する必要があるだろう。組織が健全に活動できていることと、組織のミッションが果たしていることは必ずしも比例しない。ミッションとは当然「ローバースカウトの活動を活性化させる」である。どんな時もこの原理原則に従い、全ての構成員にとって価値のある組織になっていく願う。そしてこの1年間私が、今述べたような組織への成長に寄与することができていたら幸甚に存じる次第である。</p>
<p>活動推進委員</p> <p>長谷川 明里 (広報担当) (社会連携 広報委員会担当)</p>	<p>1年間、他の委員の言葉や委員会内の協議を傾聴することでRCJ広報のあり方を見つめ直し、適宜調整して動くことを意識した。また、構造改革が施行され、活動推進委員は各分野で注力したアプローチが可能になったため、RCJ広報はより意味をもち価値を創造できる存在になるべきだと考えた。そして新しい企画『聞かせて！あなたのローバリング』を最終的に提案し、2月に初めて表に出すことができた。慎重に準備した分、実際の配信が遅くなってしまったが、先走りの広報を避け来年度への引き継ぎを整えることで、RCJの発展に寄与するものを準備できたと評価している。</p> <p>1年間運営委員会に携わり、過去6年間のRCJに集積されたエネルギーを実感した。運営委員としての任期は終えるが、これからRCJ構成員の一人としてRCJ運営委員会からの発信に注目し、RCJの発展にも協力的姿勢を維持しながら、自身のローバリングに励みたいと思う。任期が満了できたのは、さまざまな方の支えがあったからであると心から感じている。ありがとうございました。</p>
<p>ブロック代表委員</p> <p>鈴木 隆大 (北海道・東北)</p>	<p>RCJが設立されて7年が経ち、初めて北海道・東北ブロックの県代表7名が対面することとなった。また、第17回日本ジャンボリーでは、ブロック内の多くのRCJの構成員、指導者の方とお会いし、ブロックの絆を深めることができた。対面式会議では、ブロックのコミッショナー会議の方式に則り、宿泊をとまなう会議を実施するなど、ブロックの基盤づくりを模索してきた。これらを実現できたのは、今までの北海道・東北ブロックの先輩方が積み上げてくださった礎があったからこそだと実感している。</p> <p>今後は、ブロック内の指導者と密接に連絡を取り合い、ブロックをさらに活性化させていく手段を考えていくことが課題だと感じている。</p> <p>スカウトのモットー、スローガン、ちかいとおきてにつながることはありませんが、「今あるものを大切に、これからの変化に対応し、そして周囲への感謝の気持ちを忘れない。」この気持ちを大切に、北海道・東北のRCJ構成員が今後ますます、ブロックで、全国で、海外で活躍してほしいと切に願っております。</p>

<p>ブロック代表委員</p> <p>内田 椋太 (関東)</p>	<p>一年間関東ブロック代表として運営に携わり一番感じたのは、この組織は多くの大人スカウトによって支えられていること、また代替わりするスカウトたちの中で一貫した思考があるがゆえに発展し続けていることだ。</p> <p>関東ブロックでは三年前より開催されているブロックイベントを今年も過去最大人数で充実したプログラムを開催することができた。</p> <p>また、一年を通し各県連の代表を継続的に出すための方法やローバー組織の形についてブロック内で多く話し合う時間ができたと感じている。</p> <p>来年以降も各県内のスカウト・指導者とコミュニケーションをとりながらより関東ブロックを発展させ続けて欲しい。</p> <p>一年間運営委員や関東ブロック内のスカウトに多くの迷惑をかけたことと思うが、多くの人に支えられ続けることができた。ありがとうございました。</p>
<p>ブロック代表委員 RCJ Re:Quest担当</p> <p>三田 あかね (中部)</p>	<p>前年度の途中から県代表としてRCJに関わるようになり、今年度はその経験を生かし中部ブロック全体でのブロックイベントの開催に向けて力を注いだ一年であった。構造改革後ということもあり、ブロック代表はブロックでの仕事に集中することができた。ブロックイベントの開催自体は翌年度に持ち越しとなってしまったが、今まで実現できていなかったものへの第一歩は確実に踏めたと感じている。企画計画の流れを次の世代にきちんと繋げていくようにしていきたい。</p> <p>夏にはRCJとして行う二回目の野営大会「RCJ Re:Quest」に実行委員として参加した。実行委員会には5月という途中から入った身ではあったが、今までの経験を生かし制作物を中心に大会へ貢献した。運営委員会と実行委員会の連絡係としての役割は十分に果たせず、他の実行委員の方々に運営委員会のメンバーがいてくれてとても助かった。</p> <p>この一年間、多くの人たちに支えられ運営委員という役職を終えることができた。この感謝を忘れず、これからも各々が各々のローバーリングを全うできるよう、頑張っていきたい。</p>
<p>ブロック代表委員</p> <p>佐坂 美月 (近畿)</p>	<p>前年度から近畿ブロック代表としてRCJ運営委員会に携わり、前年度成果を出せなかったことを今年度こそ出したいと思ひ様々なことに取り組んだ一年であった。今年度近畿ブロックで特に力を入れたことはブロックイベントと広報である。ブロックイベントは過去最多の28名が参加しハイキングや営火、活動報告会など充実した2泊3日となり、今後の活動にも期待ができるであろう。広報は新しくTwitterとInstagram、peingを開設。今はFacebookを入れた4つを使い広報を行っている。最近は多くの方にSNSアカウントを見てもらえるようになり、今まで以上に近畿ブロックを身近に感じていただけてるであろう。今後の課題はブロック内の指導者との連携である。RCJ近畿ブロックをもっと知ってもらえるように今後動いていかなければならない。来年度の県代表・副代表にしっかり引き継ぎを行い、盛り上がり続ける近畿ブロックであってほしいと心から願っている。自分の経験も後輩へ伝えていく。</p>
<p>ブロック代表委員 全国フォーラム 担当</p> <p>吉川 直希 (中国・四国)</p>	<p>療養中につき省略</p>

報告事項 2018年度会計に関する件

日本連盟教育推進会議のもとに設置されている全国ローバースカウト会議は、現時点では日本連盟支出金のみで活動しており、寄付金・自己活動創出金はありません。よって、全国ローバースカウト会議の会計は全て日本連盟事務局で行われています。

自 2018年4月1日

収入の部 (単位：円)

至 2019年3月31日

	科 目	2017年度決算	2018年度予算	2018年度決算	備考
	日本連盟補助	1,328,706	1,650,000	1,487,793	
	合 計	1,328,706	1,650,000	1,487,793	

支出の部 (単位：円)

	科 目	2017年度決算	2018年度予算	2018年度決算	備考
旅費交通費	旅費	1,240,300	1,430,000	1,272,510	
	旅費交通費合計	1,240,300	1,430,000	1,272,510	
会議費	会議費	48,159	140,000	133,311	
	宿泊費	0	0	0	
	会議費合計	48,159	140,000	133,311	
資料印刷費	資料印刷費	0	10,000	0	
	資料印刷費合計	0	10,000	0	
通信運搬費	グループウェア 運用	0		10,692	
	RCJ Web運営費用	40,247	60,000	↑ 71,280	
	通信運搬費合計	40,247	60,000	81,972	
雑役務費	報告会開催等	0	20,000	0	
	雑役務費合計	0	20,000	0	
	総合計	1,328,706	1,650,000	1,487,793	

第2号議案 全国ローバースカウト会議三カ年目標に関する件

2018年度三カ年目標進捗の評価と報告

三カ年目標は2018年度RCJ総会にて承認されたものである。進捗、評価は以下の通りである。

	テーマ	到達目標	2018	2019	2020
情報不足の解消	ローバーのつながり	すべての都道府県からRCJ代表を選出する。 ⇒42/47選出済み ローバー同士の有機的なつながりを強化する。 ⇒RCJ Re:Quest、各ブロックイベント、新たなローバー組織の発足（北海道、兵庫、福岡など）	○	○	○
	オンラインプラットフォームの開拓	大半のローバースカウトがオンライン上でRCJとのつながりを持てるような環境を整備する。 ⇒WebページのWordpress移行は完了し、RCJ運営委員がWebページにコンテンツを投稿できる環境が整った。Facebookでの広報は継続し、LINE@や県代表JOTIといった新たな試みも行った。	○	○	●
活動環境の改善	青年参画	ローバーがスカウト運動の意思決定の場に参画する機会を拡大する。 ⇒議長が教育推進会議に引き続き出席している。更には、日本連盟コミッショナーとの話し合いが会議とは別で設けられ、ユースの意見を表明する場が増えた。社会連携・広報委員会には担当委員が参席。教育推進会議や日本連盟事業計画の中で、常設委員会にローバー年代が参画する必要性について取り上げられている。また、県・団などでの青年参画を推進するための情報提供ができるようになってきた。	○	○	○
	各種組織との連携	RCJが各種組織と連携をし、ローバー活動の推進をより大きな枠組みで行える環境を整備する。 ⇒来年度から日本連盟コミッショナーがRCJ運営委員会に参席予定。	○	○	○
	RCJの組織構造の安定化	RCJが持続発展可能で、ローバー年代にとって身近な組織となるような環境を整備する。 ⇒県代表から意見を集める機会は設けたが、意見があまり出ないといった課題が見られる。RCJガイドブックと県代表ローバーコミュニティシートを軸にするという方向性は固まってきた。	○	●	
	成人の支援	ローバー活動の発展のために成人が適切な支援・助言ができるよう、環境を整える。 ⇒指導者養成課程・指導者ハンドブック両方が必要である。ローバー年代が指導者にどういった支援を求めらるかを明らかにする必要がある。	○	○	○
	国際チーム	ローバー部門における国際活動のデータベースとなる。 ⇒到達目標に向けた体制は整ったので、実行するのみ。	○	○	●
活動機会の提供	全国事業	過年度の反省を活かし、全国事業の開催を安定化させる。 ⇒RCJ Re:Quest実行委員会の提言を踏まえてRCJ運営委員会で議論でき、認識した課題を次の事業に引き継ぐ体制もできている。構成員からのニーズを吸い上げられていないことが課題。	○	○	○
	ブロックイベント	各ブロックの背景をもとに、自発的な開催を行える環境を整備する。 ⇒今年度は3ブロックで実施予定。ブロックイベント開催における事務手続きのやり方が明らかになった。	○	●	

第3号議案 運営委員会の編成に関する件

3.1 2019年度運営委員会の編成について

憲章第9条及び第10条に基づき、以下の通り2018年度運営委員会を編成することを承認していただきたい。

【運営委員会】

ブロック代表委員に相応しい人物としては、以下の要件を満たすのが望ましい。

1. 自県及びブロックに対して意見の発信、受信ができる。
2. 運営委員会で行われる年3回の運営委員会、1回の年次総会及び各種事業に積極的に参加、参画できる。

【北海道・東北ブロック代表 1名】

(連盟 第 団)

【関東ブロック代表 1名】

(連盟 第 団)

【中部ブロック代表 1名】

(連盟 第 団)

【近畿ブロック代表 1名】

(連盟 第 団)

【中国・四国ブロック代表 1名】

(連盟 第 団)

【九州・沖縄ブロック代表 1名】

(連盟 第 団)

【留任】

池田 章浩 (愛知 連盟 名古屋 第 87 団)

【留任】

堀 秀慈 (東京 連盟 台東 第 4 団)

3.2 2019年度活動推進委員選挙

憲章第9条及び第10条に基づき、以下の通り2018年度運営委員会を編成することを承認していただきたい。

【運営委員会】

活動推進委員に望ましい人物としては、以下の要件を満たすのが望ましい。

1. ローバースカウト活動の経験豊富な者。RCJ県連盟代表者経験がある者ならより望ましい。
2. スカウト関連のみならず様々な経験、幅広い知識を有し、多角的に運営委員の業務をこなせる者。
3. 将来のローバースカウト活動の発展に寄与する意思のある者。

【活動推進委員 4名以下】

- ・ (連盟 第 団)
- ・ (連盟 第 団)
- ・ (連盟 第 団)
- ・ (連盟 第 団)

【留任枠からの活動推進委員】

- ・ 池田 章浩 (愛知 連盟 名古屋 第 87 団)
- ・ 堀 秀慈 (東京 連盟 台東 第 4 団)

第4号議案2019年度事業計画に関する件

4.1 2019年度事業計画全般

目標	月	主な予定
<ul style="list-style-type: none">・様々なRCJ構成員に対して今後のローバースカウト活動における活動機会を提供するために、RCJ フォーラム2019への参加者を200名集める。・RCJのネットワーク活用し、様々な問題を抱える構成員に対して情報提供や意見集約を可能にするために、全都道府県連盟からのRCJ県連盟代表者を選出する。・選出されたRCJ県連盟代表者がRCJガイドブックにあるような業務を適切に実施し、各々の地域においてローバースカウト活動を行う際に問題となっていることを分析し、課題解決するような施策を企画・実行する。	4	
	5	RCJ総会（全国大会）
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	RCJフォーラム2019
	11	
	12	
	1	
	2	
	3	

<RCJ フォーラム2019>

名称： RCJ フォーラム2019

テーマ： 未定

大会期間： 2019年10月12日(土)～14日(月) 2泊3日

会場： 大阪府立少年自然の家（〒597-0102 大阪府貝塚市木積秋山長尾3350）

実行委員： 選出中

開催目的： 参加者が話し合いや交流を通して、スカウティングにおける課題解決のための契機となるようにする。

開催目標： 本フォーラムへの参加によって、参加者が以下の事項を達成すること。

- ・スカウティングの本質について理解を深め、仲間が直面している課題の多様性を知る。
- ・テーマへの理解を深めることで、視野を広げ活動を豊かにするプロセスを体験する。
- ・様々な環境で活動しているスカウトと交流をすることで、活動の視野を広げる。
- ・他者との話し合いから、課題を解決するための手立てを得る。
- ・プログラムを通して得たことを自らのフィールドに還元する。

報告事項 2019年度予算案に関する件

自 2019年4月1日

収入の部 (単位:円)

至 2020年3月31日

	科 目	2018年度予算	2018年度決算	2019年度予算	備考
	日本連盟補助	1,650,000	1,487,793	1,830,000	Line@,cybozu運営費計上
	合 計	1,650,000	1,487,793	1,830,000	

支出の部 (単位:円)

	科 目	2018年度予算	2018年度決算	2019年度予算	備考
旅費交通費	運営委員会旅費	1,430,000	1,272,510	900,000	
	運営委員会宿泊費			81,000	
	ブロック会議旅費			470,000	
	旅費交通費合計	1,430,000	1,272,510	1,451,000	
会議費	会議費	140,000	133,311	62,000	H30に運営委員会の会議費として支出したNYC食費・宿泊費・会議室利用料を宿泊(旅費交通費)、食費(会議費)、会議室利用料(借損料)で項目見直し
	宿泊費	0	0	0	
	会議費合計	140,000	133,311	62,000	
借損料	借損料	10,000	0	24,000	資料印刷費→借損料項目変更(運営委員会NYC会議室利用料)
	借損料合計	10,000	0	24,000	
通信運搬費	グループウェア、SNS利用		10,692	198,072	
	RCJ Web運営費用	60,000	71,280	71,928	
	その他			3,000	運営委員会NYCデータ通信カードレンタル料
	通信運搬費合計	60,000	81,972	273,000	
雑役務費	その他雑費	20,000	0	20,000	
	雑役務費合計	20,000	0	20,000	
	総合計	1,650,000	1,487,793	1,830,000	

【参考資料】

「全国ローバースカウト会議」憲章

第1条（名称）

1. この組織は、全国ローバースカウト会議と称する。
2. 英文表記は、Rover Scout Council of Japan とし、略語として RCJ と称する。

第2条（目的）

ローバースカウトは、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟教育規程 7-31 に定められた目標に基づいて活動することで、自らの有為の生涯を築き、社会に奉仕する精神と体力を養うことが求められている。

そこで、この組織はローバースカウト同士の情報交換の場の提供や提言活動などを通して、全国のローバースカウトの活動を活性化させ、ひいてはボーイスカウト運動の発展に寄与することを目的とする。

第3条（設置）

この組織は、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟（以下「日本連盟」という）スカウト教育推進会議（以下「教育推進会議」という）の下に設置される。

第4条（構成）

1. この組織は、18 歳以上 25 歳以下で、ローバースカウト又は指導者として日本連盟に加盟登録する者の加入によって構成する（以下「構成員」という）。
2. 但し、加入を望まない者は、その旨を申告することで加入を辞退することができる。

第5条（事業）

この組織は、第 2 条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 総会の開催
- (2) 全国ローバースカウト会議の開催
- (3) 情報の発信、情報交換の場の提供
- (4) 青年の全国的なネットワークの構築による各活動の支援
- (5) 日本連盟への提言や事業参画
- (6) その他必要な事業

第6条（総会）

1. この組織は、原則1年に1回日本連盟の全国大会に併せて総会を開催する。
2. 総会は都道府県連盟（以下「県連盟」という）の代表者の参加によって行い、すべて公開するものとする。
3. 各県連盟の代表者は、発言し、決議に加わる。
4. 決議については、各県連盟代表者（委任状による参加も含む）の過半数の賛成をもって可決する。

5. 総会における決議事項は次の通りとする。

- (1) 前年度の事業報告
- (2) 運営委員の選出
- (3) 当年度の事業計画
- (4) その他重要な事項

第7条（県連盟代表者）

1. この組織は、事業の遂行にあたり、各県連盟に代表者を定める。
2. 県連盟代表者は各県連盟に1名とし、任命は各県連盟に一任する。
但し、県連盟代表者は当該県内である程度の活動を行う、当該県連盟の代表者として望まれる資格を有する者とする。
3. 任期は当該年度の4月1日に始まり、翌年3月31日までの1年間とし、再任を妨げない
4. 県連盟代表者は積極的に所属県連盟の構成員と連絡を取り、他県連盟の代表者と意見・情報交換を行い、この組織の目的達成を目指す。
5. 県連盟代表者がその責務を全うできないときは、県連盟から新たに任命された者へ交代することができる。
6. 県連盟代表者が3項で定められた任期で選出されていない県連盟に関して、該当県の承認後、該当ブロック代表の承認のもと中途参加ですることができる。

7-6 施行細則

別途、中途参加者用の申し込み用紙を記入し日本連盟事務局のRCJ担当へ提出する。

第8条（ブロック）

都道府県連盟が、効果的な施策の実施に向けて、RCJ及び、近隣地区との密接な連絡調整を図り、スカウト活動の発展を期するために、全国を区分しブロックを設ける。

第9条（運営委員会）

1. この組織は、運営を円滑に行うために運営委員会を設置する。
2. 運営委員会には運営委員、アドバイザーの他、議長の指名する者が参加できる。
3. 運営委員会は必要に応じて議長が開催する。
4. 運営委員会の構成は次の通りとする。
 - (1) 議長（1名）
総会、運営委員会をまとめ、RCJを代表する。
任期は1年とし、再任を妨げない。
 - (2) 副議長（2名）
議長を補佐し、議長が不在のときはこれを代理する。
任期は1年とし、再任を妨げない。
 - (3) 運営委員（9名以下）
運営委員会の中で必要とされた役務を分掌して担当する。
任期は1年とし、再任を妨げない。

第10条（運営委員の選出）

1. この組織は、運営委員会の委員を総会において選出する。
2. 選出する運営委員は、次の通りとする。
 - (1)日本連盟定款第56条に定めるブロックから各1名。
 - (2)前年度運営委員から選ばれた2名を含めた、RCJの活動を推進する者で、その合計数がブロック代表の数を超えない。
3. 運営委員会の中から本憲章 9-4 に定める構成を互選によって決める。

第11条（アドバイザー）

1. この組織は、運営に係わる助言を求める者としてアドバイザーを選任することができる。
2. アドバイザーは青年を教育するに足る品性と経歴を有する者で、年齢は 30 歳以上が望ましい。
3. 人数は若干名とし、運営委員会で選出し、日本連盟コミッショナーが任命する。
4. 任期は 1 年とし、再任を妨げない。

第12条（青年参画）

1. この組織は、青年の意思決定への参画を促進する。
 2. RCJ 議長は青年の代表として、教育推進会議の構成員（教育規程 6-2 (11)青年代表者）となる。

第13条（事務局）

この組織は、事務局を日本連盟事務局内におく。

第14条（経費）

1. この組織にかかる費用は日本連盟支出金、寄付金、自己活動創出金などをもってあてる。
2. RCJの会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

第15条（憲章改定）

憲章改定については、総会の決議で決定する。

第16条（付則）

本憲章は平成 24 年 5 月 27 日をもって成立し、施行する。
本憲章は平成 25 年 5 月 26 日をもって改定し、施行する。
本憲章は平成 27 年 5 月 30 日をもって改定し、施行する。
本憲章は平成 30 年 5 月 26 日をもって改定し、施行する。

2019年度全国ローバースカウト会議代表スカウト名簿

2019/5/21

現在 42 人

ブロック	No	県連盟	名前	フリガナ	所属団	性別
北海道 ・ 東北	1	北海道	戸田 弥祥	トダ ミサキ	名寄第1団ローバー隊	女
	2	青森県	横山 正市	ヨコヤマ ショウイチ	青森第2団ローバー隊	男
	3	岩手	高橋 陸	タカハシ リク	盛岡第5団ローバー隊（ビーバー隊）	男
	4	宮城県	尾形 凜太郎	オノガタ リンタロウ	仙台第28団ローバー隊	男
	5	秋田県	阿部 賢勇	アベ ケンユウ	秋田第31団ローバー隊	男
	6	山形県	大沼 環	オホヌマ タマキ	寒河江第1団ローバー隊	男
	7	福島	安齋 会香	アンザイ ハルカ	須賀川第1団ローバー隊	女
関東	8	茨城県	森田 壽一	モリタ トシイチ	水戸第2団ローバー隊	男
	9	栃木県	高山 雄也	タカヤマ ユウヤ	壬生第1団ローバー隊	男
	10	群馬県	高柳 凜太郎	タカヤナギ リンタロウ	前橋第1団ローバー隊	男
	11	埼玉県	山藤 春花	ヤマフジ ハルカ	さいたま第218団ローバー隊	女
	12	千葉県	中山 堯登	ナカヤマ ヒロト	印西白石第1団ローバー隊	男
	13	神奈川	広川 誠	ヒロカワ マコト	横浜第68団ローバー隊	男
	14	山梨	(代表なし)			
15	東京	鳥海 航輝	トリウミ コウキ	江戸川第2団ローバー隊	男	
中部	16	新潟	年永 ひなた	トシナガ ヒナタ	新潟第19団ローバー隊	女
	17	富山県	鍋本 知江	ナベモト トモエ	小矢部第3団ボーイ隊	女
	18	石川県	新田 寛和	ニitta ヒロカズ	野々市第1団ボーイ隊	男
	19	福井	山田 淳平	ヤマダ ジュンペイ	福井第7団ローバー隊	男
	20	長野県	金子 空	カネコ ソラ	立科第1団ローバー隊	男
	21	岐阜県	赤池 祥真	アカイケ ショウマ	多治見第1団ローバー隊	男
	22	静岡県	藤島 沙公良	フジシマ サクラ	富士第8団ローバー隊	女
	23	愛知	原 瑛	ハラ アキラ	名古屋第91団ローバー隊	男
	24	三重	柴田 裕介	シバタ ユウスケ	亀山第4団ローバー隊	男
近畿	25	滋賀	船橋 勇一朗	フナハシ ユウイチロウ	大津第12団ローバー隊	男
	26	京都	小川 雄暉	オガワ ユウキ	京都第43団ローバー隊	男
	27	兵庫	松永 慶太郎	マツナガ ケイタロウ	神戸第58団ローバー隊	男
	28	奈良	大村 瀬奈	オオムラ セナ	生駒市第10団ローバー隊	男
	29	和歌山	村田 真伊子	ムラタ マイコ	伊都第1団ローバー隊	女
	30	大阪	小馬 加奈子	コマ カナコ	高槻第4団ローバー隊	女
中国 ・ 四国	31	鳥取	山本 陸斗	ヤマモト リクト	鳥取第11団ローバー隊	男
	32	島根	(代表なし)			
	33	岡山	尾坂 詩宛	オノサカ シオン	西大寺第5団ローバー隊	女
	34	広島県	山本 晴也	ヤマモト ハルヤ	広島第13団ローバー隊	男
	35	山口県	竹原 希美	タケハラ ノゾミ	徳山第4団ローバー隊	女
	36	徳島	(代表なし)			
	37	香川	岡 藍子	オカ アイコ	丸亀第2団ローバー隊	女
	38	愛媛県	菊田 裕介	キクダ ユウスケ	四国中央第2団ローバー隊	男
	39	高知県	(代表なし)			
九州 ・ 沖縄	40	福岡県	柴田 雄介	シバタ ユウスケ	福岡第19団ローバー隊（ボーイ隊）	男
	41	佐賀県	(代表なし)			
	42	長崎県	橋口 彩夏	ハシグチ アサカ	東彼杵第2団ボーイ隊	女
	43	熊本県	木村 理人	キムラ マサト	熊本第18団ローバー隊	男
	44	大分県	太江田 真樹	タイエダ マキ	由布第2団ローバー隊	女
	45	宮崎	鬼束 香奈	オニツカ カナ	宮崎第11団ローバー隊	女
	46	鹿児島県	落 裕未香	オチ ユミカ	鹿児島第18団ローバー隊	女
	47	沖縄県	吉原 玖美子	ヨシハラ クミコ	那覇第12団ローバー隊	女

※氏名がブランクは現時点で通知無し。



そなえよつねに
ボーイスカウト